

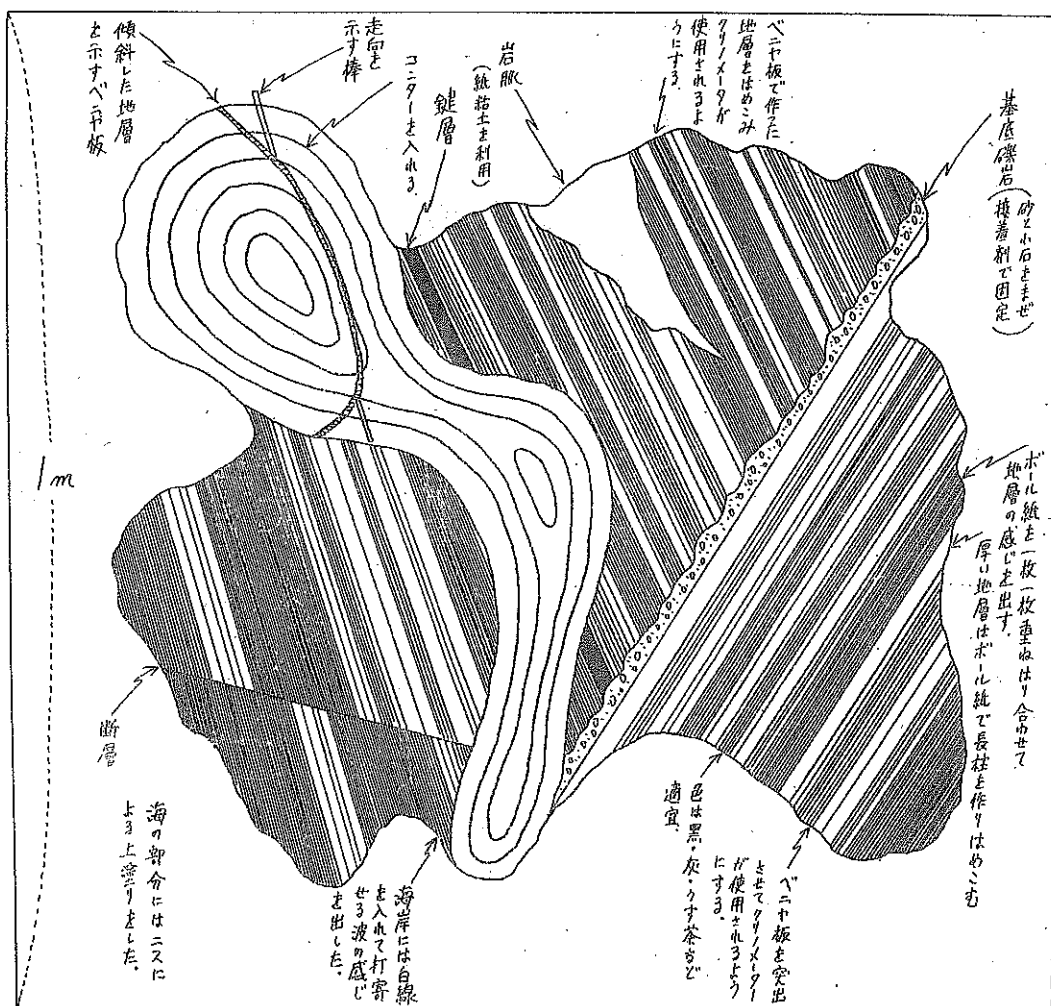
【教材研究】

地質構造説明模型（教具）について

鹿本高 藤本雅太郎

地質構造の授業において、いかに巧妙に描かれた図を使つて説明しても、立体的な事象を紙という平面にすりかえている以上、そこにはかなりの無理が生じている。「走向とい

うのは地層の延びの方向である。したがって
走向の方向に歩けば同じ 1 枚の地層が次々に
見られるわけである。」「傾斜は走向と直角
の方向に測るからその方向に 2 つに 1 つ。だ



から……。」図やスライドを使つてこんな具合に説明しても生徒達は不思議な顔をして教師を見つめるばかり。あげくの果てはかたわらの出席簿や教科書が地図の代用品となりジエスチャーたつぶりの教師の大熱演となつた頃、終りのベルが無情に鳴り響くというのが私の経験であつた。

たまたま今年の5月、天草は合津の沖合、中之島に於てマッピングの講習会が田村先生の指導で行われた。周囲が約3kmの小島に整然と地層が露出しているさまを見て、全生徒を1日野外指導のためここにつれてくるのは困難であるにせよ、この島に似せた模型を作り、指導に生かしたらという考えが浮んだ。前述のようなにがい経験をくりかえしている私を夏休みがその実動にうつらせたのである。

模型は中之島そつくりでなく指導に都合のよいように適宜改変して1週間で作り上げた。(図参照)もしこのようなものを作ってみようという方に参考までに作製上の留意点を述べると

- (1) 塗色はあらゆる点からみてポスターカラーで充分である。ニスや透明ラッカーによる上塗りも海を除いてしなかつた。
- (2) 石膏は水でといてすぐ整形できるという便はあるが、重さ・強度・経費などの点からみて新聞紙を煮つめて作つたがよい。
- (3) 台のベニヤ板はうすいとたわんで上の建造物がこわれる。2枚はり合わせるとかして軽くて厚いもの、丈夫なものを使用すること。
- (4) 面倒でもコツコツと仕上げる。手を抜いたら抜いただけのものしか出来ない。これを授業にどのように利用するかは、図を見たらわかつて戴けると思うので省略する。とにかく今迄にくらべると授業に具体性があり説得力があるのでかなりの能率を上げていると自己満足している次第。しかし地質構造についての教具はこれ1つで事足れりというわけでもなくもつと多種のものを考案製作しなければならぬのはいうまでもない。